

峰ヶ丘会報

題字 和賀井睦夫 会長

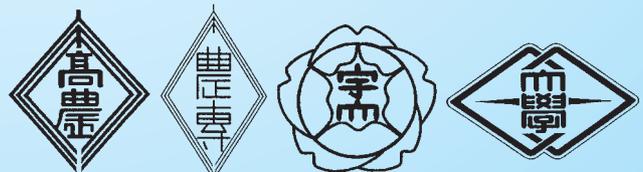
第150号 2012. 7. 31



フランス式庭園と改修されたUUプラザ 2012. 5. 23

CONTENTS

農学部創立90周年記念行事のご案内	2
会長挨拶	3
学部長挨拶	4
副会長挨拶	4
特集 農学部創立90周年記念	5
退職の挨拶	8
新任教員挨拶	9
追悼	10
支部総会	12
クラス会	13
学生支援制度報告	17
平成24年度峰ヶ丘同窓会理事会報告	18
平成24・25年度役員名簿	20
支部長一覧	20
お悔やみ	21
決算書・予算書	22
お祝い・寄贈図書	23
農業環境工学科	24



大11～昭18 高等農林学校 昭19～23 農林専門学校 昭24～36 新制宇大 昭37～ 宇大校章

MINEGAOKA NEWSLETTER No.150
The Alumni Association
Faculty of Agriculture
Utsunomiya University
Utsunomiya 321-8505 Japan
E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



集まろう、峰ヶ丘へ！

農学部創立90周年記念行事のご案内

宇都宮大学農学部・宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会共催

開催日：平成24年10月27日（土）



宇都宮大学 農学部 90周年記念

I. ホームカミング 10：00～13：00 峰ヶ丘講堂及び各学科・コース会場

宇都宮大学峰キャンパス内、峰ヶ丘講堂にて各学科・コースの教育研究活動のパネルを展示するほか、卒業生、在校生、恩師等との交流等を企画しております。

*参加は無料です。当日全学のホームカミングも行われます。

II. 記念講演 13：30～15：30 宇都宮大学学生会館 2F 多目的ホール

1) 櫻庭英悦氏（農業経済学科昭和55年卒、農林水産省大臣官房審議官）

「白書からみた農政50年」

2) 小林 豊氏（生物生産科学科応用生物化学コース平成8年卒、(株)信州サラダガーデン代表取締役）

「パブリカを栽培しながら日本の農業・農学について思うこと」

*入場は無料です。

III. 記念式典 16：30～17：10 宇都宮ポートホテル 11F グランドボールルーム

(宇都宮市東宿郷2-4-1、JR宇都宮駅東口徒歩2分、Tel.028-632-7777)

宇都宮高等農林学校校歌演奏・式辞・挨拶・祝辞・祝電披露・物故者追悼・校歌合唱等

*入場は無料です。記念講演後の宇都宮ポートホテルへの移動には、大学よりバスを配車します。

IV. 祝賀会 17：30～19：30 宇都宮ポートホテル 9F ルシール (記念式典と同じホテル)

主催者挨拶・来賓祝辞・シンボルマーク表彰式・鏡割・乾杯・思い出話・万歳三唱等

*参加者の会費は1万円（同伴者半額）です。ご送金方法等は備考のとおりです。

V. 記念植樹

農学部校内の農業経済学科棟南側に植樹します。

☆備考☆

1) 記念行事に参加される方は同封のハガキでお知らせください。祝賀会に出席される方は同封の郵便振替用紙にて会費1万円（同伴者半額）をご送金ください。**締め切りはいずれも平成24年9月10日（月）です。**祝賀会に出席される方には、粗品をご用意しております。多数の方々の参加をお待ちしております。

なお、本会の顧問、支部長、ならびに農学部在職教員以外の理事・監事の方には、別途記念行事へのご招待状を差し上げますので、祝賀会に参加される場合でも、会費納入の必要はございません。

2) いずれの会場も混雑が予想されますので、自家用車での来場はご遠慮ください。

3) 記念行事に関するお問い合わせは、峰ヶ丘同窓会（028-649-5400）、または農学部総務係（028-649-5398）までお願いいたします。

4) その他

- ・農学部90周年誌の発行（平成25年3月予定）
- ・広報活動：東野バス宇大前にて、「日本の農学の一翼を担って90年。宇都宮大学農学部は今年創立90周年を迎えます。」を車内放送しております。
- ・公募によるシンボルマークの作成（本頁標題両側に掲載）





農学部創立90周年にあたって

峰ヶ丘同窓会会長 和賀井 睦夫（農昭25卒）

私達の母校宇都宮大学農学部は、今年創立90周年を迎えました。誠にご同慶の至りに存じます。

母校は、農学部の前身である宇都宮高等農林学校が、大正11年（1922年）に創立され、校名は昭和19年に宇都宮農林専門学校と変わりましたが、同26年に最後の卒業生を送り出すまでの30年間、農学における官立の高等教育機関として大きな役割を果し、農学部の伝統の礎を築かれたことは、誠に意義深いものがあつたと存じます。

そして今日に至るまで、農学部は、日本の農学発展の一翼を担いつつ、更に又法人化への移行や、学科の再編等々、幾多の変せん、変革を経ながら、着実にそして逞しく発展して参りました。又、創立以来の卒業生は1万7千名を数え、有為な人材として国の内外で優れた足跡を残してこられたのであります。

このたび、意義ある90周年を迎えるにあたり、宇都宮大学農学部が、これまでの輝かしい歴史と伝統、そして学術研究の実績を受け継ぎ、未来に向かって卒業生、在学生、教職員の皆さんが一体となり、地域との連携を深めながら、

更なる発展をしていくことを願って記念事業を実施することといたしました。

そのため農学部と同窓会とで相連携して実行委員会を立ち上げ、事業内容を検討して参りました結果、農学部が90年の歴史を重ねて今日に至っていることを周年に亘って内外に広く広報いたしますと共に、今年10月27日(土)、前頁でご案内しておりますような事業を行うことになりました。

つきましては、同窓生の皆様始め関係各位多数の方々のご参加を心よりお待ち申し上げます。

なお、このさい一言申し上げたいと存じますが、本年6月開催された同窓会理事会におきまして、引き続き会長職を仰せつかりました。私にとりまして4期目に入ることであり、慎重の上にも慎重な対応が求められると考えておりましたが、諸般の事情もあり引き続いてお受けすることになりました。もとより非才、責任の重さを改めて痛感しておりますが、最後のご奉公として誠心誠意つとめさせていただきますので、何卒倍旧のご指導、ご協力を心よりお願い申し上げます。



こんな方いませんか！ 親子三代！宇大農学部！

本学農学部は、今年創立90周年を迎え、記念事業が行われます。伝統あるこの農学部へ、親子三代に渡り、入学し、卒業されたご家族、そのようなご家族がいらっしゃいましたら、是非、同窓会事務局へ、平成24年9月10日(月)までにご連絡ください。感謝の意を込めまして、創立90周年記念事業にて特別表彰いたします。

◇親子三代（直系）で宇大農学部へ入学・卒業された方。

※故人も含まれます。

【ご連絡先】

宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会

TEL：028-649-5400

e-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

※不明な点、詳細等は、お問い合わせください。





学部長挨拶

農学部長 杉田 昭栄 (畜51卒)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。私こと、平成24年4月より農学部長を務めております杉田です。この度、同窓会報の貴重な紙面をいただきまして、会員の皆様にご挨拶と農学部の近況報告を申し上げます。

本学は、私にとって母校であります。その宇都宮大学農学部を担うことになるとは、全く思もよらなかった人生の巡り合せです。これまでに数々の実績を残された諸先輩の先生方および卒業された1万7,000人に上る同窓生が築いた輝かしい伝統を守るとともに、時代の匂いを敏感に感じ、必要な取り組みを進めて行く責務の重さに、身が引き締まる所存です。同窓生のみなさまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

最近の大学の状況ですが、昨年10月には学長の任期満了に伴う選挙がありました。進村武男学長が再選され、4月1日から続投をしております。向こう三年は、進村学長のリードで大学が運営されます。それを支える副学長3名のうち2名が農学部出身の石田元農学部長、茅野前学部長という布陣です。さて、今年で宇都宮高等農林学校が設立されてから90年を迎えます。本会報でご案内のように10月後半に90周年記念式典を企画しております。現在、同窓会とともに実行委員会を編成し、90周年記念講演や記念式典の内容を検討しているところです。同窓生の皆様のご参加を

心より願って準備を進めております。なお、記念式典は全学のホームカミングデーと同日となっておりますので、他学部の同期の方々、サークルの仲間との再会など計画され、有益な日になればと祈念しております。また、東日本大震災の復興財源確保等により滞っていた14号館の中棟および東棟の耐震改修が、本年度予算で行われる予定です。みなさんが、峰キャンパスに来られるときは、14号館の中棟と東棟は、生まれ変わり前の大工事真最中かと思います。できるだけご不便をかけないよう努める所存です。

農学部の教育・研究の動きとしては、附属農場が全国に先駆けて共同利用拠点施設と認定され、お茶の水女子大、女子栄養大など7大学の学生が真岡の附属農場において食の生産や製造あるいは環境科学について実践的に学び、栄養学や健康科学に役立てています。一方、附属演習林企画の「おいでよ！森の学校へ」、里山科学センターによる野生鳥獣管理人材養成や中山間地の再興を支えるコミュニティービジネスプログラムなど地域に根差した取り組みも多くなりました。学部では多くの教員が線量測定、専門知識の提供などで栃木県の農業生産物放射線被害対策に関わりました。このように地域の課題を解決し地元に必要なとされる大学をめざし、教育・研究・社会貢献を進めております。同窓生の皆様には、母校宇都宮大学農学部への一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げますご挨拶といたします。



副会長挨拶

峰ヶ丘同窓会 副会長 竹永 博 (工40卒)

峰ヶ丘同窓会会員の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

去る6月の理事会において、はからずもご推薦により、同窓会の副会長に就任することになりました。私にとりましては大変光栄なことでありますが、もとより非才でそのような器でないことを申し上げました。しかし同窓会の事情や地元県庁支部との年齢的なバランス等のご意向もあり、結果的に、お引き受けすることになりました。何卒宜しく願い申し上げます。

私の自己紹介をさせていただきますと、昭和40年3月に農学部農業工学科を卒業し、同年4月から宇都宮大学農学部助手として大学教員の道をスタートしました。そして講師、助教授、教授を経て平成18年3月に定年退職いたしました。この41年間、たくさんの人に出会い、たくさんのご助力、ご協力を受けながら学科長、農場長等を経験させていただきました。また、定年後の平成19年から23年までの

4年間、私の勤務していた農業環境工学科の同窓会である「峰工会」（会員数 約二千名）の会長も経験させていただきました。

峰ヶ丘同窓会との関わりは、現役教員のとき常任理事として、会の運営に何度か参画させていただきました。また農学部創立80周年のときは学科長として、そして今回の90周年のときは同窓会の副会長として、創立記念事業に関われることは何かの縁かと思っております。

以上の経験をベースにして、伝統ある峰ヶ丘同窓会の更なる充実、発展のため、和賀井会長を補佐し、又、執行機関である理事会の皆さんと一緒に、微力ながらお役に立つべく努力していく覚悟であります。

会員の皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻を心からお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

90周年記念特集



こだま いのちの木霊

農芸化学科 昭和38年卒

谷口 通章

創立90周年、おめでとうございます。90年という歳月は、地球の歴史から見れば、瞬きほどの時間でしょうが、ずっとしりと、重みを感じる年輪ですね。私が在学したのは、1959年～1963年ですから、丁度半世紀前という事になります。その後、1983年～1989年の間、1969年2月生れの長男が大学院まで在学し、お世話になりました。おかげさまで、親子2代宇都宮大学農芸化学科の訓導を頂きました事に、改めて感謝の念を噛みしめています。

今年は、平成生れの若い生命が、大学生となった時期でもあり、世の中の光景も大きく様変りの傾向にあるが、『食べる』といういのちの営みは、基本的には一貫しているものと受け止めている。さて、当時（昭和34年～昭和38年）農芸化学科は、4つの講座に分かれていた。

- 1 講座 植物栄養学（肥料学） 栗原金吉先生
- 2 講座 土壌学 斎藤義男先生、藤沢徹先生
- 3 講座 生物化学 中村延生蔵先生、西宏先生、小椋正次先生
- 4 講座 農産物利用学（農産加工）

横山良國先生、茂野悠一先生、五月女伸一先生
中でも、4講座が一番学生も多く、人気があった。私も、4講座出身である。思い起こして、4講座は伸々と愉快な所だった。顧るだけで楽しくなるような体験が沢山ある。ほとんど毎日食品加工実習、実践を通しての学びだった。学内に止まらず、直接農家に出向いて、農作業を手伝う事が農業学習として、単位に結びついていた。ぶどうの袋かけ等を手伝うと、その礼として、収穫されたぶどうが、どっさり届けられた。和気あいあいのうちに、ワイン造りを楽しんだ事があった。発酵のさせ方、砂糖の加え方、色々工夫をこらしたが、何と云っても、呑む事が一番の楽しみだった。忘れられない事が一つある。作業の粗雑さが原因で、ぶどうの皮で、発酵栓が目詰まりしていた事に気付かず、爆発を起こし、部屋中ワインだらけになってしまった。おどろきの体験である。『ケガが無くて何より』と言うだけで、何のお咎めも無かった。が、今だったらきっと大変だったろうなァ～と苦笑させられている。味噌やしょう油を造ったり、コンニャク玉からコンニャクを造ったり、どれ

もこれも食べる事に直結する楽しい思い出となっている。発酵食品、乾燥食品、冷凍食品、粉砕食品、etc、更に農作物の品種改良に至るまで、多岐にわたって学ばせてもらった。仲間の進路として思い出される会社は、ヤクルト、カゴメ、雪印、日清製粉、千葉製粉、明治乳業、二幸食品、協同乳業、エスエス製菓、ホクレン、他、各県の試験場など幅がある。

一昨年宇都宮大学ホームカミングデーには、農芸化学科昭和38年卒の級会を兼ねて、久々のコンパを楽しんだ。当時お世話になった先生方は、ほとんどが天界の人であり、同級生にも物故者が多く、超現実的な次元と、時空を超えて深く繋がっている私たちの昨今である。

2011年3月11日の一大天啓のもとに、社会全体が変革期に突入している現在、古今の叢智を結集して、人類の未来と、地球の安寧のために、一人一人が真の自分と日々喜愛（ひびきあい）、大いなるいのちの木霊に気付き合って100周年に向い、確かな一歩を進めて行きたいと希望している。最後に母校の限りない発展を祈りペンを置く。

2012年5月1日 みどりの風の中で



学園紛争

農学科 昭和48年卒

高橋 滋

私は昭和44年4月に、いまはない名門？「農学科」に42名の同級生とともにおそらく優秀ではない成績で入学した。当時は全国的に学園紛争の続く中、宇大でも例外ではなく、学生自治会が様々な問題の解決を大学当局にせまり、これが拒否されると各学部学科学年から選出された代議員を集め、学生の最高の議決機関の代議員大会が開かれ、熱い議論を交わし、伝家の宝刀であるストライキによる授業のボイコットを繰り返していた。我々の入学した年も、ストライキの議案が代議員大会で可決され、長期の夏休み状態になり、ノンポリと当時呼ばれた、学生運動に積極的に参加しない学生は、キスリング（リュックサックの一種）を背負い、北海道への周遊券（国鉄が発行した一定期間乗り降り自由のキップ）を片手に北に向かった。当時、キスリングを背負う北海道を目指す学生は、このリュックサックが横に長いので、改札口や列車内の狭い所では、横にならな



昭和30年頃の大学・フランス式庭園

いと歩行が困難であったため「カニ族」と呼ばれていた。私も友人4人とともにカニ族になり、国鉄宇都宮駅を出発し、一路北海道を目指した。まず、びっくりしたのは、青森駅のホームであった。青函連絡船が係留されている桟橋と列車のホームが、切れ目なくつながっていた。この船に乗船し、函館へと渡り、北海道の人となった。函館からは大雪山登山の最寄りの駅の一つである上川駅を目指し、北海道での列車の旅が開始された。函館駅からは電気機関車が、客車をけん引していたが、途中うたた寝をしていて目覚めると独特の石炭を燃やした臭いと汽笛を耳にして、けん引車両が本州ではほとんど姿を消していた、蒸気機関車に交代して、またびっくりの経験であった。宇都宮を出てから、約30時間後、やっと上川駅に到着し、バスで大雪山の登山口の層雲峡へと移動し、ここから黒岳へ登り、大雪山連峰を縦走し、トムラウシ岳を經由して新得町に下山する10日間の登山を開始した。この北海道登山旅行では、蝶が好きな私にとって、本州にはいない多くの種の蝶を目にすることができ、いまでも夢に出てくるくらい感動した。

以上のように私は一応充実したように見える学生生活を送っていたが、宇大も入学式、卒業式のボイコットが続き、我々の時も卒業式はなく、42名の内、昭和48年に卒業したのはわずか30人で、その後6人が卒業したのみで、多くの仲間が、卒業することなく宇大を去った激動の時代であった。



思い出

畜産学科 昭和57年卒
押久保 徹

高空に ひかりあかるく たたなわる 遠き山脈
まなびやは 緑に映えて 若き夢 庭につどえる
ああ白雲の かげなびく「峰ヶ丘」

あしたに仰ぐ空高く ふゆべに望む野は広し
眼路のあなたに玲麗と 千古不動の富士が嶺や
あ秀麗の地を占めて 立つや貴きわが母校

新旧2つの校歌。私の父は獣医学科3回生でした。父から大学の話を聞き育った事もあり、私の中には旧校歌も流れている感じがしていました。

私が入学したのが昭和53年。大学入試センターが翌年から一本化になり、大学入試制度が大きく変わる前年度でした。大学入学後、普通科出身の私にとり大学での実習や実験は興味深く、特に動物生理・繁殖や解剖は印象に残っています。清原での農場実習も魅力的であり、大学3年での北海道実習は自分自身大きく成長したなど実感したものです。

また当時の畜産学科は元気な先輩が多く、生協での宴会は出入り禁止になっていた時期がありました。フランス式庭園で宴会をし、勢い余って池に落ちることもしばしば…。最後には校歌を腕を組みながら声高らかに？歌った記憶が

あります。

学園祭での思い出は、プロレス研究会を立ち上げ仲間と共に興行しました。当時のアナウンスは「宇都宮36万人プロレスファンの皆様いかがお過しでしょうか？」でした。翌日清掃の方々に、貴方プロレスの人だよと声をかけられました。

研究室は動物繁殖学を専攻し、マウスの染色体を固定する研究をしました。村松先生と吉沢先生にお世話になりました。でもあまり研究に熱心でなかった私は、研究室での研究に関する思い出よりは、野球での事が思い出に残っています。特に村松先生は、巨人軍の江川投手がお気に入りでした。私が大学4年生のころは、藤田巨人が日本一になり江川投手の全盛時代でした。先生は江川の高校時代からの熱烈なファンであったと聞いていました。江川が登板した翌日、研究室に行く前にはかならず駅売りのスポーツ新聞を買い、先生と読んだものでした。江川について話すときの先生の笑顔が印象的でした。

今でも心の帰る場所として宇都宮大学は私の中にあります。地域に根ざし、貢献出来る大学として更に発展することを願っています。



農業・ 農村最前線にて

農業環境工学科 平成9年卒
関 元弘

この度は宇都宮大学農学部創設90周年おめでとうございます。卒業生として大変嬉しく存じます。

私は、平成9年に卒業して以来、流れ流れて現在は福島県二本松市にて有機農業をしております。今年就農6年目で、地域にだいふ定着し、また、農業が分り始めたところです。

昨年は就農5年目の節目の年で、ある程度の経営が確立されたため、県からの借入金が償還免除となり、また、有機農家の新たな組織「オーガニックふくしま安達」を立ち上げ共同出荷を開始しました。さらに、農業の6次産業化ということで酒類製造免許を取得し、地元の農産物を副原料にしたオリジナル発泡酒の製造を開始する記念すべき年となりましたが、何よりも、3月11日に発生した東日本大震災、それに伴う福島第一原子力発電所の事故による放射能拡散が大きい事件でしたでしょうか。

その影響は今でも続いています。農産物の販売では、今年は去年より厳しいとバイヤーが口を揃えます。農学部の記念すべき90周年の今年こそが、私達にとって正念場となります。

とは言え、厳しいのは今に始まったことではなく、過疎化・高齢化、担い手不足、資材費高騰、農産物低迷等々以前より厳しく、農業・農村は存続の危機に立たされてきれており、原発事故によりそれが加速されただけなので、こちらも早く対策を講じるだけのことです。

今年を乗り切り、将来への布石を打ち、記念すべき100周年を笑顔で迎えたいと思っています。

生産偏重を改め、農産物加工や消費者との交流に取り組

み、農業者自らが自給をベースとした豊かな生活を取り戻し、それを消費者と共有していくことが、生産条件不利地である中山間地域生き残りの策であると考えております。

そのため、従来の自分達の活動の強化に加え、消費者参加型のワイン作りをするためのワイナリー開設、ブドウ栽培の推進、都市・農村住民が共に学ぶ場としてのあぶくま農業塾（仮称）の開設を今年の目標に据え活動しているところです。

今の福島は何かしなければ「時間切れ負け」との危機意識を持ってはいますが、まずは自分達が楽しく感じられるような活動を通して、10年後に地域が輝いていられるように思っております。

宇都宮大学農学部の名に恥じぬよう、現場密着型で頑張りたいと思っておりますので、結果を楽しみにしててください。

皆様の各分野でのご活躍をお祈り申し上げます。



思い出

森林科学科 平成17年卒

齊藤 康乃

「森林科学科」の響きにひかれ、宇都宮大学へ入学したのは平成13年4月のことでした。当時の私は、まさかその後大学院まで進学し、6年間も峰ヶ丘キャンパスのお世話になるとは思いもよりませんでした。

大学時代の思い出といえば、なんと言っても充実した実験・実習に尽きると思います。1年生時の樹木学実験実習に始まり、4年生で卒業するまでに様々な実験・実習がありました。構内だけでなく船生と日光にある附属演習林や他大学の演習林などで行われた実験・実習はとても思い出深いです。中でも一番お世話になったのは船生附属演習林でした。愛山寮では夜中まで友人たちと勉強に励み、語り、飲み、青春の一時を過ごすことができました。いつも美味しいごはんとお弁当を作ってくださった寮母さんには大変お世話になりました。今でも同窓生と会う際にはたびたび当時の思い出話に花が咲きます。

また、大学、大学院と在籍した森林資源利用学研究室では、熱帯地域における造林樹種として注目を浴びているアカシアマンギウム（Acacia mangium）の組織培養の研究に取り組みました。実験の目的は、in vitro増殖、カルス誘導及びプロトプラストの単離により大量増殖法の一部を確立することでした。その結果の一部については、インドネシアのバリで開催された学会で研究発表する機会をいただきました。その際には、研究に使用する種子を提供していただいたインドネシアのボゴールの植物園を訪れることもできました。

学園祭では、我が研究室が焼き芋ときのかうどんのお店を出店するのが伝統となっています。毎年多くの卒業生が先生方を慕い土産を持って訪ねてくださいましたが、卒業後もそういった接点があることは嬉しいものです。

平成17年3月に大学を卒業して早7年。30代になり、家庭を持つ人、仕事に打ち込む人、自分探しを続けている人、

様々な人が様々な人生を歩んでおりますが、卒業10周年にはぜひ皆で当時を思い出して集まりたいものです。



思い出

農業経済学科 平成19年卒

池田 紘子（旧姓 櫻井）

農学部へ入学したきっかけは、日本の食や農に対して漠然とした不安感を抱いていたことでした。当学部は、宇都宮高等農林学校からの深い歴史があり、全国でも多くの功績と社会貢献の実績を有する学部であると認識していましたが、いざ学科棟へ足を踏み入れたとき、そのAntiqueな建物を一目見て、間違いない!!と確信しました。

大学生活の1番の思い出は、学科棟から眺める庭園や農作物の成育から常に季節の移り変わりを感じ、その中で学科の仲間や先生方と勉強をしたり、時にはお酒を交わしながら沢山の話を聞き、自分の視野を広げられた事です。

そして卒業後は、農業独自の資金面での不安定さを政策的に支援したいと考え、農林漁業金融公庫へ入庫。大学時代、学生の意見を尊重し自由に勉強させていただいた事が、今の職場では一定のルールの中でも自分の考えを持ち自律的に業務を遂行するといったことに役立っており、それは今、自分の強みとなっています。

そんな風通しのよい校風と諸先輩方が作り上げてきた歴史ある農学部が、今年創立90周年という節目を迎えることを心から誇りに思います。

今私は、子育てと仕事の両立に苦戦しながらも、入学当初に抱いていたような不安を感じる人がいなくなるよう、今後も日本農業の発展に貢献すべく仕事に取り組んでいきたいと考えています。



創立80周年記念植樹の思川桜 2012年4月18日撮影

新任教員あいさつ



佐藤 祐介

所属・職種：農学部 生物生産科学科
助教

専門：動物栄養化学

2012年2月に生物生産科学科・動物生産学講座・栄養制御学研究室の助教に着任しました佐藤祐介と申します。私は昭和54年に福岡県に生まれました。その後、学部、大学院（修士および博士）を卒業し、学術研究員（特任助教）として勤務させていただくまで、ずっと福岡で生活しておりました。この度、ご縁があって宇都宮大学の一員になりましたので、ご挨拶を申し上げます。

私は現在、「筋肉のサイズやタイプ（遅筋と速筋）の調節」について研究しています。具体的には、筋肉の調節に関わる未知の遺伝子を探索し、その機能を調べています。筋肉のサイズやタイプの調整メカニズムを理解し、操作することができれば、産肉量の増加や、味わいの異なる肉（霜降り肉と赤身）を自在に作り出すことが可能になります。また、ヒトに応用すれば、医療（老齢性筋萎縮や生活習慣病の予防）やスポーツ分野にも貢献できます。今後は、栄養素による筋肉の機能改善についても挑戦したいと思っています。

最後になりましたが、宇都宮大学と地域社会の発展のため、教育研究に精一杯努めますので、教職員および関係者の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



山田 潔

所属・職種：農学部 生物生産科学科
講師

専門：食品免疫学

昨年11月に生物生産科学科に講師として着任しました山田と申します。東京の下町に生まれ育ち、農学部から大学院博士課程、そして就職してからもずっと地元で暮らしてきました。宇都宮大学のある栃木県は母親の出身地で、親類も宇都宮市など県内各地におり、幼少のときから馴染みのある地域でありました。この度、宇都宮大学にお世話になることになりましたが、不思議な縁を感じるとともに、懐かしさのようなものも感じております。

これまで細胞生物学と免疫学を専門分野として研究を行ってきました。現在は、食品がもつ免疫調節機能や食物アレルギーについて研究を行っています。食品中の成分には、免疫系に直接あるいは腸内細菌を介して間接的に働きかけ、免疫応答を修飾するようなものがあることが明らかとなってきました。また、これらの多くは腸管に存在する独特の免疫関連組織に作用することも明らかとなりつつあります。これから私が明らかにしていきたいと考えている研究課題は、「免疫系が、有益な食品成分や微生物と有害な食品抗原や微生物とをどのように識別しているのか、またそのときの生体の応答はどのように異なるのか」ということです。こうした食品成分の機能や腸管免疫系に属する免疫細胞の機能を明らかにすることで、新たな機能性食品の開発や食物アレルギーの軽減・予防に貢献していきたいと考えております。

最後になりましたが、宇都宮大学の発展に貢献できるよう教育と研究に取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

入学式および 保護者説明会

平成24年度入学式が、4月9日(月)午前中に宇都宮市文化会館で開催されましたが、爆破予告の騒動があり、式の途中で中止となってしまいました。警察によると、爆弾などの不審物は見つからなかったようです。

午後には、農学部3101教室において農学部主催の新入生保護者説明会が開催され、会長および理事長による同窓会の紹介も行いました。



追悼

菅原友太先生を偲ぶ

菅原先生は平成23年12月8日、白寿に近い天寿を全うして逝かれた。

先生は昭和10年宇都宮高農卒業後、東大農学部栽培研究室に入られた。同研究室の野口弥吉教授の回想によれば、「高農卒業後九大農学部に進学する予定だったのを犠牲にして私の助手となり……この上ない協力者であった」という。以後昭和34年までの24年間、作物の生理や栽培理論を中心とした研究生活を送られた。学位論文は「野菜類のビタミンCに関する研究」である。同年宇大教授に就任、当時の農学科拓殖学講座を担当することになった。

私は大学3年生（旧制）の時、栽培研究室の専攻学生となり、日常的に菅原先生に接し、お世話になることになった。卒業後も折にふれてお会いし、激励の言葉などをいただいたものである。昭和47年には私の熱帯農業経験などから、先生の継続候補として宇大に招かれた。

先生の宇大在勤は18年、その間農学部長を始めとして主要な役職を歴任、学内運営に優れた手腕を発揮された。

拓殖学という学問領域は、これまでの研究生活とは異なり、菅原先生にとってはいささか戸惑うものがあったものと想像される。実際には、国際農業開発研究といったことを講座存在の理念とされたようである（その後講座名は比較農学に変わった）。

このような講座の枠組みの中で、先生は常に日本の稲作を念頭に置かれていたようである。早くから水稻の直播栽培の普及、稲作経営の改善、さらには生産過剰対策としての飼料米の生産、等々の調査研究に力を注いでいる。それは定年後、国土館大学院教授に就任されても続けられた。これらの研究の集大成として平成14年、「21世紀水田稲作への提言」が刊行され、最後の論説となっている。

菅原先生、私も間もなく米寿を迎え、そちらの世界に参るのも遠くないでしょう。その節は積る話に花を咲かせましょう。それまで安らかにお休み下さい。

（旧農学科比較農学講座 名誉教授 長田 明夫）



桐田啓一先生を偲ぶ

桐田啓一先生は平成23年12月2日、肺炎のため逝去された。享年98歳、大往生を遂げられたと思う。平成13年7月、在京卒業生有志が開いた米寿の祝賀会では非常

にお元気だった。これが先生との出会いの最後の日になった。

先生は郷里輪島村の産業組合の創始者である厳父の強い薦めで、京都大学農学部農業経済学科で産業組合論を専攻し、卒業後、農林省産業組合課勤務を経て、昭和15年7月、

高農時代から本学部の特色として知られていた産業組合の研究・教育拡充のために農業経済学科に迎えられ、51年4月、定年退職された。退職後も協同組合懇話会の研究会やシンポジウムなどで活躍されていた。

生先は農協運動の主体（組合員）を基底とする独自の農協運動の理論的基礎を提示し、農協研究の発展に寄与するとともに農協関係誌で農協運動のあり方についてのユニークな政策提言を行い、その展開方向に貴重な指針を提起された。また、先生は農協の役職員・青年部・婦人部・組合員の研修会への出講、講演などで全国各地を飛び回り、農協運動の推進・発展に尽力された。このような功績で昭和61年春の叙勲で旭日中綬章を受章された。

先生の講義は巧みな話術で淡淡と進められたが、中身の濃い内容だった。私は熱心に聴講し、農協問題に対する実践的興味を触発された。同期生も同様だったと思う。当時の就職事情もあったと思うが、同期生の3分の1が農協の県連合会・全国連合会に就職した。何故か私の農林省での振り出しも農協課で、農協研究に関わる契機となり、先生の農協論の講義を引継ぐことになった。我が農業経済学科は農協の再建整備・発展・再編期を通じて、農協界の人材養成の拠点的作用を果たしてきた。その推進に大きく寄与したのが先生の学外での出講などの実践的活躍である。

先生はソフト帽を愛用し、峰ヶ丘キャンパスでは目立つスタイリストで、また、無類のタバコ好きで文芸愛好家だった。お住まいは東京駒込で往復の車中で読む文芸作品をいつも携行していた。行き付けの喫茶店で紫煙をくゆらしながら文芸談義に長じている恰好いお姿は今でも鮮明にまぶたに浮かぶ。先生は座右の銘の水五訓を道標に農協運動に対する初志を貫いた幸せな生涯を送られたと思う。ご冥福をお祈りいたします。（新経35年卒 玉城 昌幸）



笠原義人先生を偲ぶ

笠原先生は平成24年6月8日、胃ガンのため逝去された。今年3月に、宇都宮大学で開催された日本森林学会で、学会主催シンポジウムの基調講演を務められ、地方

を起点とした林業再生について力強く語られていた姿が記憶に新しいだけに、急な知らせは受け入れ難い思いがあった。

先生は、宇都宮大学ご卒業後、九州大学大学院に入られ、1967から9年間、九州大学で助手を務められた。その後、宇都宮大学に戻られ、大学では評議員などの要職に当たり、大学のとりまとめ役としてご活躍された。同時に、森林経済学会会長、森林学会の副会長等を歴任し、県の林業政策の重鎮として数々の林業関係委員会の委員長、議長を務められた。また、同窓会では、常任理事や副会長を歴任し、旧講堂の改修では、大学との折衝にご尽力下さった。

先生は、このようなご多忙なお立場にありながらも、常に学生との交流を大切にされていた。無類のお酒好きであったことから、にぎやかな雰囲気の中で、お酒を飲みながら議論する事を好まれ、留学生を交えた学生が取りまく

輪の中で、林業政策のあり方や研究の展開などをご教授いただくのが常であった。先生はこれらの場を通して、我々に国民や労働者の立場に立った森林・林業政策のあり方を語られ、林業活性化のため進むべき道をお教え下さった。

大学の近所にお住まいであったこともあり、いつも夜遅くまで議論におつき合いいただき、最後には心配した奥様が大学までお迎えにみえるなど、ご迷惑をおかけすることも多かったが、先生におつき合いいただいた時間は、学生の大切な財産として残されたと思う。

先生は、1941年に、当時先生のお父様が小学校教員を努められていた朝鮮半島で生誕された経歴をお持ちであったことから、特にアジア社会の発展を強く望まれ、アジアからの留学生受け入れを積極的に進められた。先生の研究室では、韓国、中国、タイ、ミャンマーなどの卒業生を多数輩出し、宇都宮大学と韓国三尚大学、タイカセサート大学の連携協定締結実現に当たり、大変なご尽力をいただいた。

先生が蒔かれた種は、今、学科の森林技術者教育の基盤として着実に実を結びつつあります。林業研究者、宇都宮大学同窓生として最後まで走り続けられた先生、どうか心安らかにお休み下さい。(林学科25回卒 田坂 聡明)



福原敬彦先生を偲ぶ

福原敬彦先生は平成24年1月6日、81年の生涯を閉じられました。

先生は、昭和38年11月、林学科に新設されたばかりの木材材質改良学講座に名古屋大学から赴任され、平成2年度までの27年間、林学科の学生の教育と木材の材質改良に関する研究に携わり、多くの卒業生を送り出しました。その後、平成

3年度からは農学部の改組に伴い、生物生産科学科応用生物化学講座に移られ、平成8年3月のご退官までの5年間は当講座の一員として高分子材料学、木材化学工学を担当されました。

先生は、当時食品化学講座を運営されていた前田安彦先生と中学時代からの旧知の関係からか、私が大学院生として在籍していた昭和45年当時から、また昭和49年に私が農学部助手として赴任してからも、よく食品化学研究室に向いて来られましたので、いろいろな思い出が呼び起こされてきます。先生が私たちの研究室に来るとすぐに、院生や卒論生を相手の将棋が始まっていました。将棋を指しながらほとんど絶え間なく先生が口にされる何本ものたばこから多量の煙が立ち上っていたことを思い出します。先生はスポーツでも真に身軽で、ソフトボールの学科対抗戦などでは、非常に軽やかかつ鮮やかに捕球、投球などをされるものですから、私たちの農芸化学科などは全く歯が立たずに圧倒されておりました。今、本当に懐かしいお姿として浮かんできます。研究については若きころの思い出があります。私が助手だった頃、農芸化学科には未だ赤外分光光度分析計がありませんでした。私は野菜成分の構造解析を行う上で先生の研究室にこの装置があることを聞きつけて、早速使わせて戴いたことがあります。いつもの冗談を言いながらの将棋指しとは打って変わって、実に丁寧に使い方などのご指導を受け、感銘したことが思い出されます。もう一つ、先生は昭和52年4月から1年間、学生自治会や学生団体と夜遅くまで話し合うということもあった時期、学生部長として実に根気よく、誠実に、学生との話し合いに応じておられたことです。学生部長職も1、2年で交代する難しい時期だったと思います。

ご退官後の先生のご様子は私自身全く存じないまま、つい最近になってご逝去の報を知った次第です。福原敬彦先生、安らかに眠り下さい。心からご冥福をお祈りいたします。(応用生物化学講座 新化45年卒 宇田 靖)

*** 宇都宮大学学務部よりお知らせ ***

日本学生支援機構(旧・日本育英会)の奨学金を返還している方へ

奨学金の返還中の方で、返還が経済的に困難な場合は、「奨学金返還期限猶予願」もしくは「奨学金減額返還願」を日本学生支援機構に提出してください。(東日本大震災に被災された方のうち、災害救助法の適用を受けない近隣の地域であっても、同等に被災された方や勤務先が被災した方については、返還を減額・猶予できる場合があります。) 詳細については、日本学生支援機構のホームページをご覧ください。奨学金返還相談センターにご相談ください。

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)(旧・日本育英会)

ホームページ(パソコン用) <http://www.jasso.go.jp/>

モバイルサイト(携帯電話用) <http://www.daigakuic.jp/jasso/>

日本学生支援機構奨学金返還相談センター

電話：0570-03-7240(ナビダイヤル)

※ PHS、一部携帯電話、IP電話からは03-6743-6100へおかけください。

※ 受付時間：8時30分～20時00分

※ 月曜～金曜(土日祝日・年末年始を除く)

支部総会（2支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思っております。お問い合わせは、P20の支部長一覧をご参照下さい。

FUKU
SHIMA

福島県支部総会

毎年恒例の福島県支部総会を平成23年12月3日(土)に福島市内の「フロンティア」において、34名の同窓の方々の出席のもと開催いたしました。今回は、東日本大震災後でもあり、開催について支部役員等で検討しましたが、「こんな状況だからこそ開催すべき」との意見により開催する運びとなりました。

今回は、昭和38年畜産科卒の衆議院議員（農林水産委員長）吉田公一様が、来賓として出席され、激励の御言葉をいただきました。また、同窓会本部からは、以前、福島大学で教鞭を執られていました農学部農業経済学科の守谷裕一先生をお迎えし、無事に総会を終了することができました。

総会後の懇親会では、守谷先生から最近の大学の様子など、映像資料とともに御紹介いただき、出席者は在学中を思い出しながら、先輩・後輩と気あいあいとした雰囲気の中で会話が弾みました。最後に、大学歌を全員で高唱し、一日も早い復興への誓いを胸に、来年の再会を約束してお開きとなりました。

今年は、郡山市内で開催する予定ですので、福島県在住の同窓生の皆様には是非御参加ください。

(福島県支部 事務局長 総合農学科 昭和40年卒 星 恒徳)



KYOTO

京都支部

平成24年6月2日(土)に京都支部「宇都宮大学峰ヶ丘同窓会」を京都平安ホテル（京都市）において、9名が出席し開催しました。

高木会長の挨拶で幕を開け、京都府支部の活動に尽力頂いた梅原高志氏（農17）が逝去されたことの報告を受け、故人を偲びつつ、それぞれの近況や現在の宇都宮大学の状況（第1回宇都宮大学ホームカミングデー等）について、話しが深まりました。

青春を過ごした宇都宮大学についての共通項を軸に大輪の話しの花が咲き、楽しい一時を過ごしました。今後も、毎年、少人数でも集まれる者だけ集まり、地道にやっぴいこうと約束し、閉会しました。

なお、参加者（敬称略）は高木会長（林36）ご夫妻、星野（農化35）、松下（林49）ご夫妻、渋谷（林52）、巻田（林55）、佐藤（森9）、荒田でした。

(畜産学科 第25回 荒田好彦)



京都平安ホテルの庭園にて

農学部同窓会の皆様

宇都宮大学附属農場産品 地方発送のお知らせ

宇都宮大学生協では附属農場産品各種のご注文と地方発送を承っております。

親しい方々のお集まりなどでのご利用はいかがでしょう。

お申し込み方法

- ① 右記生協に連絡し、申込用紙をもらってください。
- ② 申込用紙に必要事項をご記入の上、生協までFAXでお申し込みください。
- ③ 在庫状況を確認して電話かFAXで返答いたします。
- ④ 代金をお振り込みください。
- ⑤ 振り込み確認後、発送いたします。

ご注意とお願い

- * 送料は着払いでお願いいたします。
- * チーズやミルクソースなどの乳製品は在庫が潤沢にありません。ご注文いただいてから発送までお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。
- * お酒・焼酎は1本ずつ化粧箱にお入れします。
- * 適当なサイズのダンボールに入れて発送します。贈答向けの包装はできませんのでご了承ください。

宇都宮大学生協 峰購買部
TEL: 028-636-1856
FAX: 028-634-9648

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/logomark/goods.html>

クラス会（9クラス会）

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。

① 農経4回生、益子に集う

クラス会

平成23年秋のクラス会は久しぶりに栃木県内益子町での開催となった。21年の東京開催の2年後の前半期と予定されていたところへ東日本大震災となり、延期せざるを得なくなり、ようやく11月16～17日益子で開催の運びとなった。当日は震災地の在住者、仙台の伊藤夫妻なども元気な姿を見せ、一同ひと安心。今回の参加者は夫人同伴者も含め、17名となった。

16日午後JR宇都宮駅集合、ホテルのバスに乗車し、宇大附属農場へ。在学中の総合農場時代のことは記憶にあるが、現在の農場ははじめて見る人も多い。居城教授から「ゆう大」米誕生の話などを聞き、広大な農場を見学後、ホテルへむかった。

益子のホテルサンシャインに宿泊、懇親会で大いに盛りあがった翌17日はつかもと陶芸広場で絵付、共販センターで陶器品定めなどをし、現地で昼食後宇都宮駅に向かい、再開を約して散会した。（岩浪 晃）



② 昭和40年卒・新13回農学科同級会開催

クラス会

平成23年9月22日、岩手県花巻市の台温泉で、写真の通り15名の参加を得て開催しました。台風15号の日本列島縦断と重なり、心配しましたが、22日の未明には岩手県を通過し、交通機関も確保されて予定通りの参集となりました。3月には東日本大震災があり、開催そのものが危ぶまれましたが、内陸方面の被害は比較的軽微であったこと、宮城・秋田の近隣県の級友が支援してくれたことなどにより、なんとか開催にこぎつけたところです。

22日は宮沢賢治記念館を觀賞の後、宿に入り、千年の歴史ある名湯を楽しんでから会食。幹事が持ち込んだ地元産松茸で作った松茸酒・焼き松茸・土瓶蒸し、更には宇都宮

大学産の酒・焼酎が膳に添えられました。それらを肴に各自から近況開示などあり、カラオケを準備していたが見向きもされない程に話が弾んだところです。翌朝は松茸ご飯。出来映えも良く、香りが食堂に溢れ他のお客からもお裾分けを要望されるほど好評でした。

食後は、仕事や行事のため急ぎ帰る者、他の観光地に向かう者等それぞれでしたが、次回は群馬県を会場にすることを約束しての解散でした。（幹事 藤巻 正耕）



③ 農芸化学科（16回卒）クラス会 （平成23年9月16・17日）報告

今回で15回目になる平成23年のクラス会は山形県鶴岡市湯野浜温泉の『遊水亭いさごや』で平成23年9月に催された。我々が入学した昭和39年は東京オリンピックの年、日本は高度成長のまただ中、縁あって級友となった30人の仲間はほとんどは定年を迎え趣味、自家菜園いじり、孫だましなどが大事な仕事になっているその中でまだまだ会社のトップ、講演等で活躍中の同級生がいることは心強く嬉しい限り。今回は伊東・榎本（神奈川）、大滝・清水・箱山（埼玉）、木村・門馬（福島）、柴田・田中（夫人同伴）・橋本（夫人同伴）（栃木）、樋浦（東京）、高梨（愛知）、染谷（千葉）、高田（山形）総勢16人が集まった。16日は酒田駅集合後土門拳記念館、東北銘醸（株）を見学し、今回の幹事役を引き受けた高田の自給菜園を案内して湯野浜の会場に到着。温泉で汗を流したのち懇親会が始まった。後輩の農化18回卒佐藤淳司御夫妻（東北銘醸社長・酒田市商工会議所会頭）も多忙のところを銘酒「初孫」を大量に差し入れて駆けつけてくれて大いに盛り上がった。

故人となった曾我君に献杯を捧げ、震災や原発事故などもあったので現状報告をしていただき、南相馬の門馬からは生々しい避難生活、放射能汚染の報告、染谷からは液化化のこと、田中からは母校教官定年退職の報告等があった。

恒例の柴田、伊東による「マンカラ楽団」オカリナ演奏

と地元幹事による民謡「庄内おばこ・最上川舟唄」、2次会・3次会と夜の更けるのもいとわず話は尽きない。最後に大滝から田中へ退職記念の、染谷には新宿中村屋社長就任お祝いのそれぞれアルバムが贈られお開き。翌日は酒田市内観光めぐり後酒田駅で別れを惜しんだ。

次回は樋浦幹事の仙台で開催予定である。なお高田と樋浦の両名は翌18日羽黒山に足を伸ばし、2446段の石段を元気に踏破して高齢健在ぶりをしめた。(幹事 高田 政衛)



4 農芸化学科19回生 クラス会報告

クラス会

農芸化学科19回生クラス会を2011年11月13日に栃木県湯西川温泉「花と華」で行いました。=幹事は栃木県在住の小田部氏と斎藤=

今回は遠隔地だったせいか男性のみの参加でした。

一次会は「お狩り場焼」、二次会は「カラオケ」、締め三次会は幹事部屋での「free talking」と、大いに盛り上がり、時の経つのを忘れる程でした。

40年振りに顔を合わせた人もおり、思い出話は尽きずに良き青春時代を懐かしんでいました。奈良県より参加の中島氏が飲む暇もない程、たくさんの写真を撮ってくれました。昨年、撮らなかったせいか、皆さん、大感謝&感謝でした。

翌日は紅葉の中をドライブし、大笹牧場経由で日光へ。所野の「ソバ屋」でLunch Meetingし、お開きとなりました。

今年度は、震災復興というテーマの下に満場一致で、福島県にての開催に決まりました。阿部氏と小川氏が幹事です。

昨年参加出来なかったお方は是非とも参加されますようお願い致します。

参加者14名：阿部・小田部・菊地・糸川・後藤・斎藤・渋谷・関口・高崎・中島・奈良(=豊川)・福島・山田・三好。

尚、2012年1月末に菊地恭二君が急逝なされました。享年62歳でした。

謹んでご冥福をお祈り致します。(斎藤 光 記)



前列左から 中島、斎藤、菊地、高崎、糸川、三好
後列左から 渋谷、阿部、関口、奈良、山田、後藤、小田部

5 農業経済学科第16回 クラス会 (昭和43年3月) クラス会

平成23年10月13日(木)～14日(金)農経科(昭和43年3月卒業)のクラス会を那須温泉で開催した。

3月11日の東日本大震災の影響もあり開催が危惧されたが被災地の級友も幸い決定的なダメージはなくいつもとほぼ同数の18名の参加で楽しい2日間となった。

この会は1年おきに開催し今回で8回目となった。今回の初参加者は桐生君。クラス会は楽しかったでしょうか？

1日目は初めに今は亡き2名の級友と大震災で犠牲となられた方々のご冥福を祈り黙祷。その後懇親会・二次会と時間のたつのも忘れ、飲み・語り合った。

2日目は紅葉真っ盛りの茶臼岳と那須平成の森を散策し、2年後の再会を約し帰路についた。幹事の佐藤・板橋・渡辺公の3君、本当にご苦労様でした。

次回は栃木県が何回か続いたので北海道函館と決定した。新幹事の松田君一人で大変でしょうがよろしくお願ひします。何か手伝えることがあったら気軽に声をかけて下さい。

皆さん平成25年に函館で会いましょう！

今回の出席者【18名】=猪狩・五十嵐・板橋・上野・岡田邦・川俣・木村・桐生・小平・佐藤・澤田・中島・中田・松沢・松田・山本・渡辺公・渡辺武

(田村 宏志 記)



6 燦久会（農経39卒） “山形蔵王に集う” クラス会

爽秋に、燦久会の面々16名が山形蔵王に集った。'00年以来、毎年集まっており、12回を数える。山形県内では10年前の、会員の多くが丁度耳順を迎えた年に、庄内で開催している。今回は、もう一つの山形、内陸地方の自然と文化に触れながら旧交を温めようという企画である。

山形駅西広場に、約束の小半時まえなのに仲間らしき一団。青柳、小林、斎藤、藤野、渡辺、佐々木〈善〉で、先の大震災の被災地の者も元気な姿で先ずは安堵する。これに関谷、永井が加わる。間もなく車で森山、熊倉、塚原そして阿部が到着。篠崎、鈴木が電車で着くのを待ってさっそく車に分乗し蔵王山の麓にある歌人斉藤茂吉記念館へ向かう。

茂吉の生家近くにある記念館では、精神科医で近代日本の代表的歌人である斉藤茂吉の華麗なる一族のあれこれなど説明を受ける。皆は茂吉がより身近な存在に感じられたに違いない。

この後、宿に向かおうとした段に、意外や意外、誰もが蔵王山のお釜を見てないことが判り、急ぎ山頂に向かうこととなる。お釜付近は人影もなく、西の朝日連峰の空にすでに日が落ちかかっており、景色の雄大さに感動する間もなく、急ぎ山を下りた。

宿では、水戸から直行した宇佐神が出迎えてくれ、皆が揃った。源泉100%かけ流しの湯につかり、懇親会が始まる。

特段セレモニーもなく、思い思いに大震災被災支援への感謝のことは、これまでの半生を振り返っての新たな人生への思いやエイジシュート達成の宣言などなど、日付けが変わっても話が尽きない。欠席した岸本から「東北頑張れ！」と差し入れられた地元神戸のワインと酒に、山形銘酒の十四代、雪漫々、壺天の各1升をも軽く空け、米沢牛ステーキをべろりと食するその様に、人生70古来稀とは言えない感を強くする。

翌朝早く温泉街や木々に囲まれた小道を散策する者あり、前夜の酒は何処に。前日に続き澄み渡った青空のもと、山形市街に下り、米沢市出身の中條精一郎を顧問として設計された重文旧県庁舎・文翔館、かつての城下町の姿を残す御殿堰や紅の蔵を見た後、馬見ヶ崎河原で山形名物の芋煮会。1年後、元気で再会することを約束し合い散会した。

（横山 五良右衛門）



燦久会 S39年宇大農経卒同級会 山形市蔵王温泉 季の里 H23. 9. 27

7 「昔イケメン今フケメン」 農学科昭和30年卒同窓会 塩原温泉に集まり昔話に、今の話 クラス会

昭和30年に卒業してもう55年余昔の好青年も80歳の声を聞き正真正銘のフケメンとなっても会えば青年の時代に戻り、昔話に今の話に熱中、それにしても就職難で誰もが苦労したもの何と真っ当な生活をして老年になったものと学校生活と教師に感謝である。

平成23年10月6日海拔900mの塩原温泉新湯の「下藤屋」に同窓17名、夫人7人計24人が集まった。

幹事の鈴木秀男君が司会して各人の近況と欠席の友人の消息を確認しつつ懇談となった。

福島で果樹の指導に全力を傾注した橋本登君は教え子の自慢の大きな立派な梨を大量に持ち込みをされ、また茨城の稲葉敏英君は朝早くから充実した「ミョウガ」を採集し持参してくれた。

幹事の篠原勝三郎君は各人に「震災にも負けない梨」と「元気なミョウガ」をとって各人に分け喜ばれた。

翌朝は、裏山から硫黄の香りがかすかに漂う食堂でホテル自慢の卓上製の豆腐を賞味し日本一の足湯「湯っぼの里」を経由し紅葉で有名な大吊り橋320mを渡り記念写真を撮り、農村レストランで昼食後那須塩原駅で解散した。

「今後の同窓会はどうするか?」「フケメンとなり体力が落ちた」「でも同窓会が無いと寂しい。この会に出るために健康に留意しているのに」との意見があり次は無理をしないようにとと千葉県房総の突端で朝の富士山を見ようと

計画されることになった。

(鴨志田 記)



8 クラス会 卒業50周年を記念して 畜産学科9期の同級会を開催

昭和36年に卒業以来、今回初めて同窓会報に投稿します。卒業した時「同窓会は大先輩方の情報交換の場」等と話し、若いつもりでしたが、気がついたら50年が過ぎてしまいました。

今は、我々がその立場になっていた次第です。

この度の開催は悩みました。東日本の大震災が起きたばかりでした。

しかし風評被害で元気をなくした観光地が、少しでも元気づけばと開催に至った次第です。

2011年5月24日に、鬼怒川温泉のニューさくらで、13回目を開催しました。

26名が卒業したものの、結局14名の参加となりました。

当日は、一番遠くから参加した原君の音頭で乾杯して懇談会がはじまり、50年を振り返り感慨深いものがあり話が弾みました。

この機会にと作った50周年記念誌の下で、一段と思い出話に花が咲きました。

翌日は、益子の里を訪れて、陶芸メッセや窯元を覗いて後そば懐石を楽しんでから母校へ、昨年退職された畜産学科15回卒業の藤原克彦様に校内を案内して頂き、卒業後初めての人もおり時間オーバーでしたが、皆それぞれに感慨深いものがありました。

母校で記念写真を撮ってから生協で、宇大オリジナル食品(麦焼酎・饅頭)を土産にして解散、夫々が母校の宇大正門を後にしました。

青木 知義



9 農学科第4回卒同級会(昭和30年度卒) in福島県会津 クラス会

卒業して56年が経過しまもなく傘寿を迎えようとする面々が2年振りの同級会に顔を合わせた。今や白髪ではあるがなお闊達そのもの。思い出多いJR宇都宮駅に集合、バスを利用して一路会津へ向う。白河から甲子温泉を経て会津西街道へ、途中大内宿に立ち寄る。その間車中で十分時間をとり、各々近況報告、現役引退後、地域で奉仕している面々、健康そのもの山登りや自然保護活動、地域産業振興に力を注いでいる者、ボランティア活動など日々余裕をもって充実した生活の様子などの披露がありお互い元気をもらった。

大内宿は会津西街道沿、江戸時代参勤交代の主要な宿場であった佇まいが色濃く残っている貴重な文化財、茅葺屋根が整然と立ち並ぶ家並を散策することができた。

宿泊は会津若松東山温泉、温泉に漬かった後懇親会に入る。在学中は戦後の混乱期から抜け切らず、食料、物不足の下での学生生活を懐古して諸々の話で夜の更けるのを忘れての話題に花が咲いた。

翌日は鶴ヶ城の天守閣から会津盆地を一瞥戊辰戦で大きな犠牲と打撃を被った会津の人人の辛酸を想い城を後にして緑滴る裏磐梯を巡る。昨年の東日本大震災、放射能汚染の影響を諸に受けているのであろう観光客が少ない。

一日も早い復興、回復を願い、静かな湖沼を眺めながら帰路についた。

車中次回の同級会開催を決め互いに健康管理に心掛け再会を約束して別れた。

参加者 尾田、加藤、菊地、小林、佐々木、杉田、佐藤、田村嘉応、田村吉之、津久井、名塚、本田、望月の13名
(津久井恭夫)



皆さまからのお便りをお待ちしています。

学生支援制度報告

国際会議報告

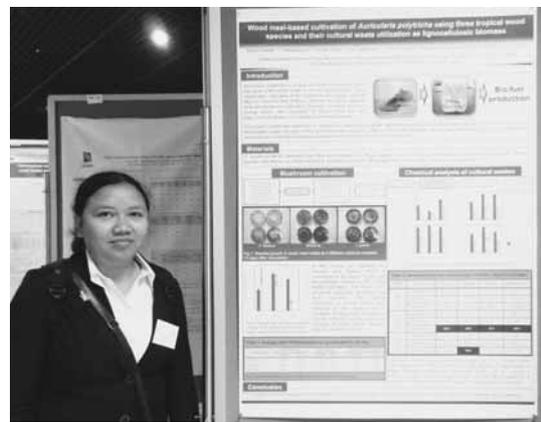
連合農学研究科博士課程3年
Denny Irawati

2011年10月4から7日に、The 7th International Conference on Mushroom Biology and Mushroom Products がフランスのアルカションにおいて開催されました。私はこの国際会議に参加し、"Wood meal-based cultivation of *Auricularia polutricha* using three species of tropical wood waste utilization and their cultural as lignocellulosic biomass"という題目で発表を行いました。アラゲキクラゲ (*Auricularia polutricha*) は、木材を分解する白色腐朽菌に属し、熱帯地域において幅広く栽培されています。私は、熱帯材を培地に用いたアラゲキクラゲの菌床栽培についてポスター発表を行いました。

この国際会議では、世界中の様々な国から、特に、きのこに関する分野の研究者が出席していました。発表の多くは、*Agaricus bisporus*に関連した研究でしたが、多くの情報を得ると共に今後の研究に生かすものとなりました。フランスを訪れるのは初めてでしたが、過去の栄光と近代化が混ざり合う、とても優雅な文化でした。フランスでの食事において、パンは欠かすことのできない食べ物でした。

その味はとても上品で、バターとの組み合わせでより一層美味しかったです。しかしながら、アジアの国の国民としては、1週間滞在後になると、お米が恋しくなりました。

最後になりましたが、このような貴重な経験にあたり支援をして頂いた峰ヶ丘同窓会の皆様に感謝申し上げます。



国際会議報告

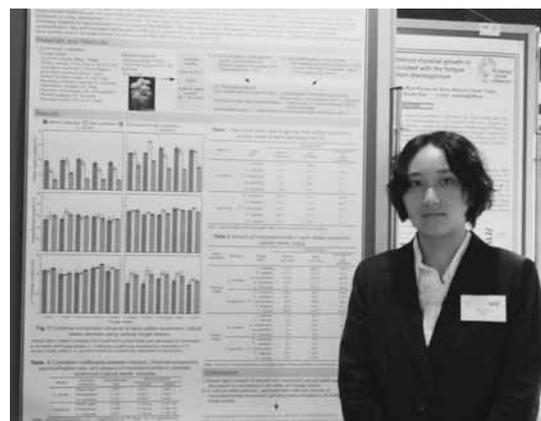
宇都宮大学農学研究科2年 森林利用学研究室
上田 智聡

私は、2011年10月4から7日にフランスのアルカションで開催された The 7th International Conference on Mushroom Biology and Mushroom Products において、ポスター発表を行いました。発表は、"Enzymatic saccharification of edible mushroom cultural wastes using ozone oxidation pretreatment"というタイトルで、木質バイオマスとしての食用きのこ廃菌床を、オゾン酸化前処理によりリグニン分解することで、廃菌床からのエタノール生産における糖化効率を上げることを目的とした研究内容でした。海外へ行くこと自体が初めてでしたが、今回の国際会議を通して、様々な国の研究者の発表を聞くことは、これからの研究意欲を刺激するものとなりました。

会議では、昼食からワインが出されたり、発表の合間の休憩時にはマカロンなどのお菓子が出されたりなど、折々にフランスらしさを体感することができました。また、開催地のアルカションは、砂浜がなだらかに続く海辺の穏やかな土地でした。短期間の中でも、フランスの文化に触れ

ることができたのは、とても貴重な体験になったと思います。

最後に、このような貴重な会議の参加にあたりご支援して頂いた峰ヶ丘同窓会の皆様に心より感謝申し上げます。



平成24年度理事会報告

平成24年6月16日13:00より、ホテルサンシャイン宇都宮において、志賀徹庶務担当理事の司会のもとに、平成23年度峰ヶ丘同窓会理事会が開催された。以下に、項目別に議事内容を述べる。

1. 物故者への黙祷

志賀徹庶務担当理事より、笠原義人副会長が2012年6月8日に逝去されたことについての報告があり、理事会の開催に先立ち、物故者への黙祷を行った。

2. 同窓会会長挨拶

和賀井睦夫峰ヶ丘同窓会会長より、まず故笠原義人副会長の峰ヶ丘同窓会に対するご尽力に対して感謝の意が表された。その後、東日本大震災に対する峰ヶ丘同窓会の対応や、本年度の農学部創立90周年記念事業について説明がなされた。

3. 議長選出

慣例に従い、満場一致で和賀井睦夫峰ヶ丘同窓会会長が議長に選出された。

4. 会務報告

津谷好人峰ヶ丘同窓会理事長より、各支部総会、常任理事会、宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会、90周年記念実行委員会、90周年誌編纂委員会、学生評議会の各開催状況と、峰ヶ丘同窓会役員選挙、峰ヶ丘同窓会会報の発行など、平成23年度の会務が報告された。また、平成23年度の学生支援制度の交付は20件であり、およそ半数が東日本大震災に対する支援金・見舞金であったことが報告された。

5. 平成23年度決算報告、及び監査報告

石栗太会計担当理事より、一般会計、基本財産特別会計、名簿発行特別会計について決算報告がなされた。特に一般会計については、通信費の多くは会報の発送費であること、東日本大震災に対する学生支援制度のために基本財産特別会計から一般会計へ70万円の繰入を行ったことについて説明がなされた。その後、大野敬治監事（工39）より監査結果が報告され、決算報告は満場一致で承認された。

6. 役員改選

和賀井睦夫峰ヶ丘同窓会会長より、平成24年度、25年度の常任理事の委嘱について提案がなされ、満場一致で承認された。その後、津谷好人峰ヶ丘同窓会理事長より、峰ヶ丘同窓会会長・副会長の選出方法について説明がなされ、慣例に従って各学科から1名の理事が代表者となって議論した結果、和賀井睦夫峰ヶ丘同窓会会長の留任と、竹永博（工40）副会長の選出が提案され、満場一致で承認された。竹永博副会長からは、峰ヶ丘同窓会の充実と発展に努めて協力したいのご挨拶があった。

7. 平成24年度予算案

石栗太会計担当理事より、会務内容と併せて平成24年度予算案の説明がなされた。特に90周年記念事業、並びに記念誌の発刊費として、基本財産特別会計から一般会計へ220万円の繰入を予定していることが説明された。また、昨年度の東日本大震災対応とは異なり、新入生歓迎会や学生支援制度に関する予算を例年通りとしたことについて説明がなされ、予算案は満場一致で承認された。

8. その他

津谷好人峰ヶ丘同窓会理事長より、農学部創立90周年の特設サイト（<http://agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp/about/90th/>）上に記載されている和賀井睦夫峰ヶ丘同窓会会長の挨拶が紹介され、10月27日に予定されているホームカミング、記念講演、記念式典、祝賀会についての説明がなされた。更に記念植樹の選定や90周年記念誌の編纂状況、路線バスによる90周年の車内アナウンス、90周年記念シンボルマークの決定について報告がなされた。また、10月に予定されている農学部14号館中棟・東棟の改修工事に関して、同窓会事務局が9月より仮移転すること、改修工事後において再び14号館に開設されることが報告された。これらの説明に対して、まず阿部聖茨城支部長（経38）より、90周年事業に関するアナウンスと記念誌の発刊数について質問があり、津谷好人峰ヶ丘同窓会理事長、並びに和賀井睦夫峰ヶ丘同窓会会長より、記念事業については同窓会会報で案内する予定であること、その際、祝賀会の案内葉書を同封する予定であること、また記念誌は100年誌に向けての資料という性格のものであるため、希望者に渡る程度の少数の発刊を予定しているとの答弁があった。この答弁に対し、五味仙衛武理事（経23）より、90周年誌のような事業は同窓生が大学に残らねば続かない、伝統の火を消さぬように頑張らねばならないとの意見が出された。また、中根淑夫理事（獣20）、湯浅甲子理事（獣19）より、同窓会における理事の役割は非常に大きいのではないかとの意見があった。更に湯浅甲子理事（獣19）より、近年困難になりつつある評議員の選出や、名簿の無償配布の提案、各学部の同窓会連絡協議会の情報が届かないことについて質問があり、津谷好人峰ヶ丘同窓会理事長より、評議員の選出法については現在検討中であること、名簿の無償提供は財政的に難しいこと、同窓会連絡協議会については今後会報において報告していきたいとの答弁がなされた。

理事会終了後、引き続きホテルサンシャイン宇都宮において懇親会が開催された。来賓の進村武男学長からは、最近の大学を取り巻く情勢について説明がなされ、杉田昭栄農学部学長からは、農学部の状況についてより詳細な説明がなされた。懇親会では、宇都宮大学産の米を醸した日本酒や焼酎を堪能し、小林恒雄東京支部長（工42）による万歳三唱にて閉会した。 文責 会計担当常任理事 岩永 将司

会 務 報 告

1. 支部総会等の開催

2011. 7. 2	茨城支部総会	香川理事
8. 5	富山支部総会	石栗理事
8.20	塩谷支部総会	津谷理事長
8.31	県庁支部総会	和賀井会長・笠原副会長
9.10	岩手支部総会	志賀理事
10. 1	宮城支部総会	宇田理事
11.11	群馬支部総会	津谷理事長
11.19	秋田支部総会	石栗理事
12.03	福島支部総会	守友裕一教授（農業経済学科）
12.02	宇大支部総会	和賀井会長
12.03	栃木県高校職員連絡会	和賀井会長
2012. 3.16	千葉支部	津谷理事長



2. 理事会等の開催

2011. 7. 6 第1回常任理事会及び引継会
 8. 1 第2回常任理事会
 8.22 第3回常任理事会
 8.29 第4回常任理事会
 8.29 第1回農学部90周年記念事業実行委員会
 9.13 第2回農学部90周年記念事業実行委員会
 9.28 第5回常任理事会
 11. 7 第6回常任理事会
 11. 8 第1回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
 12. 7 第7回常任理事会
 12. 7 第1回農学部90周年記念誌編纂委員会
 12. 7 第3回農学部90周年記念事業実行委員会
 2012. 1.25 第8回常任理事会
 1.25 第4回農学部90周年記念事業実行委員会
 1.27 学生評議員会
 2.24 第9回常任理事会
 2.24 第5回90周年記念事業実行委員会
 3.08 第2回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
 3.12 第10回常任理事会
 3.19 第2回農学部90周年記念誌編纂委員会
 4.18 第3回農学部90周年記念誌編纂委員会
 4.25 第11回常任理事会
 4.25 第6回90周年記念事業実行委員会
 5.16 第12回常任理事会
 6.13 第13回常任理事会
 6.15 第7回90周年記念事業実行委員会

3. その他の行事

2012. 2.12 峰ヶ丘同窓会役員
 (理事・監事) 選挙
 3.22 宇都宮大学卒業式：
 和賀井会長
 4. 9 宇都宮大学入学式：
 和賀井会長
 4.10 農学部新入生歓迎会開催
 5. 9 平成23年度会計監査
 6.16 平成24年度理事会

4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行等

2011.10.20 第149号発行

5. 学生支援制度による学費支援金、見舞金交付 20件 以上会務報告

会長委嘱理事（平成24年度）

理事長	津谷 好人（経45）		
常任理事	生物生産科学科		
	植物生産学講座	香川 清彦（農H3）	
	動物生産学講座	吉澤 緑（畜50）	
	応用生物学講座	○金子 幸雄（農47）	
	応用生物化学講座	宇田 靖（化45）	
	農業環境工学科	志賀 徹（開45）	
	農業経済学科	津谷 好人（経45）	
	森林科学科	石栗 太（森H9）	
			（○印：新任）



新入生歓迎会、盛大に開かれる！

峰ヶ丘同窓会主催の平成24年度農学部新入生歓迎会は、桜の花も未だ満開に至らない4月10日の夕方に開催された。和賀井会長、笠原副会長（当時）、津谷理事長以下、全常任理事の参加の下、杉田農学部長、各学科・コースの教員と新入生117名が生協食堂に参集した。会長ならびに学部長挨拶、混声合唱団による歓迎の大学歌披露、上級生からの歓迎スピーチのあと、教員、上級生との交流、親睦が行われ、盛会のうちに終了した。





下記の方々のご冥福をお祈り致します。

平成23年10月1日～平成24年6月現在までの物故者

農学科

農9：小林 義男
農11：小出 英夫
農13：竹内 兵児
農13：会曾川一宮
農18：藤井 定
農21：乾 英夫
農29：樋 幸四郎
農35：佐藤 守

農10：上野 栄
農12：高橋 政夫
農13：能條 訥
農14：信末 善一
農19：柴田 為
農23：佐藤 次郎
農32：宮下 平八
農35：渡辺 恭司

林学科

林18：田口 忠勝
林20：本間 泰夫
林22：天野 皓永
林22：古谷 利夫
林23：小塚 修一
林23：鎌倉 忠徳
林25：本田 眞秋
林32：宮崎 健三
林36：豊田 守信
林46：坂本 進

林19：中村 洋
林20：加藤 四郎
林22：三ツ谷治郎
林23：鈴木 龍雄
林23：小倉喜子三
林25：安藤 俊一
林25：横川登代司
林35：蓮見 瑠一
林45：鶴田 保夫
林50：国井 俊光

農業経済学科

経6：上野 茂
経15：今田 勇
経19：仲田 貞巳
経23：磯 禮一
専経21：大木 操
専経21：黒澤鹿之助
専経21：坂本 孝八
経52：二瓶耕治郎

経9：太田 和夫
経17：梅村 又次
経22：須藤 繁
経26：小菅 薫
専経21：大淵 博司
専経21：黒田 正
経31：米山 良

畜産学科

獣18：氏家 正
獣19：推津 弘之
獣22：関口 幸一

獣19：八木原 智
獣19：渡邊 義綱
獣23：菊地 道男

獣23：高井 三雄
獣25：鈴木 孝一
畜38：渡辺 和美

獣23：朝倉 了信
畜30：平野 三郎
畜41：武井 征史

農業環境工学科

土22：田代 五郎
土26：高橋 直

土23：山口 正平
H23入学：水村隆太郎

農芸化学科

化23：星野 璋造
化25：阿美 武雄
化46：菊地 恭二

化23：吉岡 正蔵
化39：室井 紘

総合農学科

総31：小林 貞之

元教員

農学科：菅原 友太（農10）
経済学科：桐田 啓一
林学科：福原 敬彦 笠原 義人（林39）
（以上事務局で把握したもの。）

○会員数及び会費納入状況

（大正15.3卒～平成24.3卒）

会員数

会員数	旧制	新制	計
卒業生数	3,560	13,850	17,410
物故者	2,386	716	3,102
現会員数	1,174	13,134	14,308

会費納入状況

納入状況	旧制	新制	計
現会員数	1,174	13,134	14,308
納入者数	1,016	10,765	11,781
納入率	86.54%	81.96%	82.33%

在学生会員及び会費納入状況

	学部	大学院	計
在学生数	947	133	1,080
会費平均納入率	74.1%		

（平成21.4入学～平成24.4入学）

附属図書館の利用について

大学の附属図書館は学外者でも利用できますが、利用の際受付で記入する利用者登録申請書の利用者区分欄に「卒業生」の選択肢がありませんでした。4月1日からは新たに加えられていますので、この機会に積極的にご利用下さい。利用案内等についてはホームページをご覧ください。

<http://www.lib.utsunomiya-u.ac.jp/>

◆表紙写真の説明◆

写真の通り、UUプラザ（かつて大学生協や生涯学習研究センター等が入居していた建物）の外装が改修され、真っ白な建物になりました。フランス式庭園側には、ベンチも多数設置されましたので、ご利用ください。

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

内閣人事

- 法務副大臣
谷 博之（総農41卒）

23年秋 瑞宝章小授賞

- 上江 崇春（経40卒）

第52回（2011年）グリーン賞 （林野庁林政記者クラブ主催）

- 西村 勝美（林39卒）

任命

- 芽野 甚治郎（理事 副学長）

昇任

- 執印 康裕（森林科学科 教授）

転出

- 岩淵 和則（北海道大学 教授）

寄贈図書

- 「イチョウ精子発見 平瀬作五郎の栄光と受難」
生沼 忠夫

会員名簿が発行されます

来年（平成25年12月予定）、新しい宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会の会員名簿が発行されます。名簿印刷指定会社「廣済堂」から、「住所等調査ハガキ」が届きましたら、是非ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。これ以外の名簿業者は、峰ヶ丘同窓会とは無関係ですので、充分にご注意願います。

なお、ご購入申し込みにつきましては、151号会報にてお知らせいたします。

峰ヶ丘祭

第63回峰ヶ丘祭が平成23年11月19日(土)～21日(月)に「結笑」というテーマで開催されました。今年度は11月23日(金)～25日(日)に開催される予定です。



お詫び

昨年発行の会誌149号の訂正
29頁お悔やみ欄 環境工学科 木幡 敏 様
→ご本人様はご健在です。
大変申し訳ございませんでした。

次回会報発行日程 原稿締め切り日のお知らせ

会報次号の発行は、2013年7月30日の予定です。
原稿の締め切りは、5月30日となりますので、宜しくお願いいたします。

編 集 後 記

今号では、90周年記念事業のご案内をする必要があったことから、いつもの年よりも早い発行となりました。そのためか、支部会やクラス会の報告が少なくなっています。来年度の発行も今回と同じ頃を予定していますので、投稿を予定されている方はお早めにお送り下さい。90周年記念事業には多くの方が参加していただけますよう、お待ちしております。

(香川)

こんなこと

やっています (その6) 農業環境工学科

環境と調和した農業システムや豊かで美しい田園空間の創出が目標です。

農業環境工学科が掲げる目標です。農業環境工学科は昭和16年に農業土木学科として創設されて以来、農業工学科、農業開発工学科、そして平成3年に農業環境工学科と改組されて現在に至っています。その間一貫として数学・物理学系の工学的アプローチを中心として高度な農業生産、快適な農村生活、そして豊かな地域生態系の3つが調和した持続可能な環境調和型社会を作り出すことを掲げ、教育、研究を進めてきました。こうした目標を達成するため、現在12名の教員がそれぞれの専門分野で活発な研究を行っています。

各教員の専門分野は、農地工学、土壌物理学、土壌環境工学、水利環境学、水文環境学、水質環境工学、農村計画学、田園生態工学、圃場機械学、地域エネルギー工学、食品流通工学、生物資源循環工学、生物環境調節学、環境制御工学となっており、土、水、環境から機械、エネルギー、資源循環、食品と多岐にわたり、多様な社会的要請に応える研究を行っています。特に現場からの問題提起と現場での解決をめざし、フィールド科学としての農業環境工学をめざしていますので、同窓会の皆様との共同での研究が出来たら何よりです。3.11の東日本大震災による放射能汚染による農地や林地の再生、津波被害による塩害からの農地再生にも本学科の持つ工学的手法を用いて解決にあたっています。

“入り口より出口でキラリと光る”、そんな教育をめざしています。

農業環境工学科は、意欲を持った学生の能力を最大限に引き出し、卒業時には社会の幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。入ってきたときより出て行くときに光る能力を身につけている—農業環境工学科は、そんな学生を育てるため、どこよりも教育に熱心に取り組んでいると自負しています。

専門教育の質を高めるため、教員と学生が協力して教育の改善に取り組んでいます。学生による授業評価及びその返答（授業評価学生委員会）、教員相互の授業チェック、授業内容の精選とマップ化（教育改善委員会）など特色ある専門教育プログラムを設定し、このプログラムは世界水準として認められているJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を他校に先駆けて2003年に受けました。これにより卒業生は「技術士補（修習技術者）」の資格を得ることができます。これまでに264名の卒業生が技術士補の資格を取得して、社会で活躍しています。

学部同窓会、学科同窓会を活用し、同窓生との繋がりを深めています。

農業環境工学科は、学部の農学部峰ヶ丘同窓会とともに、学科独自の農業環境工学科同窓会（峰工会）を維持・活用し、その相互効果で同窓生諸氏との交流を深めるよう活動を行っています。いつの世でも社会的に活躍している同窓生の声は貴重なものです。学生のインターンシップ、就職活動などへの助言は直接的に



農場でのトラクター実習



パラオ共和国での水環境・物質動態の研究に関する現地調査

UUサステナブルビレッジ 植物工場における野菜栽培

学生を勇気づけます。またJABEEの認定に当たっては、同窓生を中心とした外部評価委員会を立ち上げ、有能な社会人育成システムとして学科の教育が改善されているのか、議論をさせていただいています。同窓生の声を取り上げ、生かしていきたい、農業環境工学科の希望です。

農業環境工学科は、学生と教員の距離が近い学科であると言われる。今後とも学生の近くで、同窓生とも交流しながら、役に立つ学科として存在したいと思っています。

（文責：農業環境工学科 志賀 徹）

- ◆ その1 附属農場 会報第145号
- ◆ その2 雑草科学研究センター 会報第146号
- ◆ その3 バイオサイエンス教育センター 会報第147号

- ◆ その4 里山科学センター 会報第148号
- ◆ その5 附属演習林 会報第149号

フアイリング用中心点